

布哇教育會編纂

日本語讀本

科中
用等

卷一



寄贈 芥川昭寿

(柳井市阿月出身)

目録

第一課	草に寝て	一	第九課	私達の小さな畑	四十三
第二課	星の話	二	第十課	リヤ王物語	四十六
第三課	親心	(一) 八 (二) 十三	第十一課	獸類の移住	五十六
第四課	旅行中の友へ	十八	第十二課	お人形の歓迎會	六十
第五課	ポチ	二十一	第十三課	笑話	六十四
第六課	西洋雜話	二十五	第十四課	眞の知己	六十六
第七課	いろいろの道具	二十八	第十五課	布哇の漁業	七十
第八課	孔子	三十三	第十六課	鯉	七十三
			第十七課	鉢の木	七十七
			第十八課	川	八十九

第十九課	象狩	九十一
第二十課	護國の目と腕	九十五
第二十一課	類似せる東西の諺	百二
第二十二課	次郎の手紙	百四
第二十三課	難破船	百八
	(一)	百八
	(二)	百十六
第二十四課	さあ一雄君	百二十四
第二十五課	露の身の上話	百二十八
第二十六課	富士登山	百四十一
	(一)	百三十四
	(二)	百四十一

第二十七課	搖籃の唄の思ひ出	百四十七
第二十八課	母の膝	百七十四
	自修文	
	一 曾我兄弟	一
	(一)	一
	(二)	四
	(三)	十
	(四)	十五
	二 賢母の教	十九
	(一)	十九
	(二)	二十三
	三 新鐵道唱歌	二十九

菊
wild camomile

第一課 草に寝て

雲はずんく飛んで行く、
雲は大きい白い鳥。
僕は寝てる、草の上、
荒地野菊の花の中。
雲のつばさは明るくて、
まるで光が降るやうだ。
白いつばさのあの端の、
ちやうどあの下、ああたり。
今はどこだろ、どこの町、
僕の知らない野つ原か。



北原白秋

鐵路の果は鯨ヶ澤
千疊敷もたづねみん

川部をたちて雪深き
冬の夜長のわら細工
作るといへる浪岡の
驛も後にいざさらば

一つ二つの驛過ぎて
窓べに青き波の色

うつると見れば我が汽車は
はや青森に着きにけり

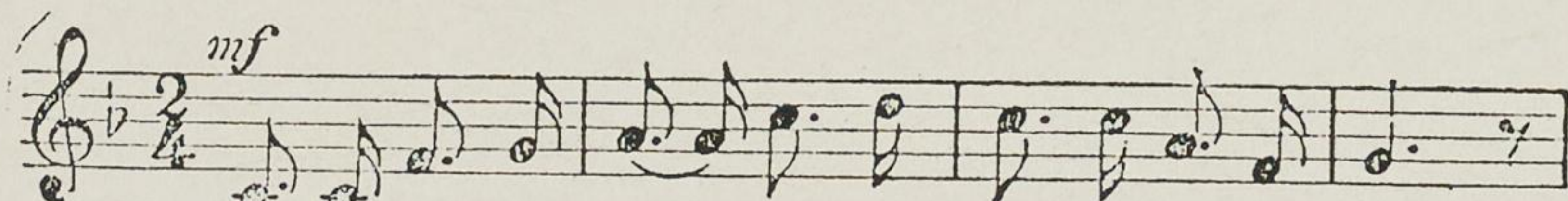
津輕の海の波静か
港に集ふ船の數
東北線と奥羽線
此處に續きて海は又

北海道の連絡地
ホームに續く岸壁に
待つは何船何丸か
やがて出て行く海の旅

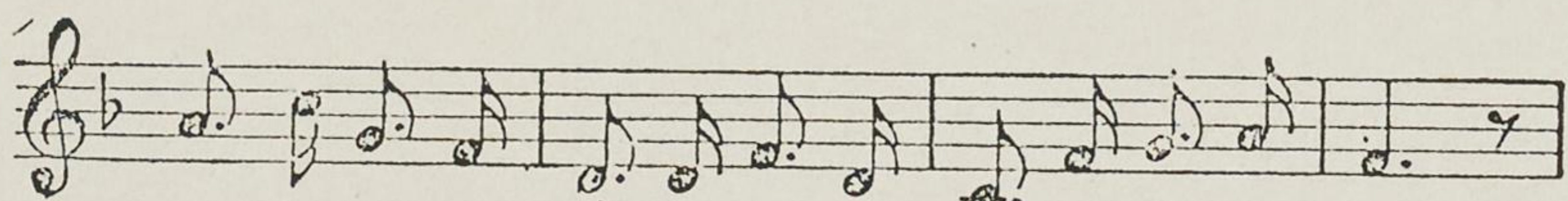
(「新鐵道唱歌」ニ據ル)

新鐵道唱歌

輕快 ♩ ♩ = 96



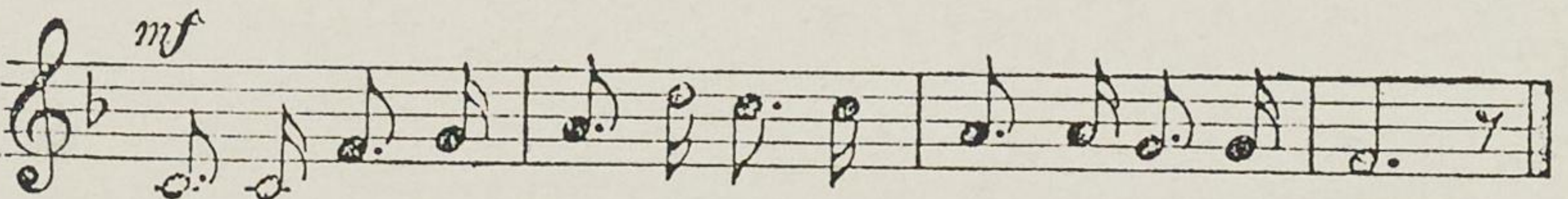
1. カーゲモカボソキカタワレノ
2. あかばねあーとにあらかはを
3. ツキカゲクーダクオホトネヲ



ユフベノツーキヲナガメツツ
わたるとみーればかはぐちや
ワタレバヤーガテヲヤマエキ



ウヘノノエキヲーハカレユク
うらわのえきもーはやすぎて
リ+ウモウセンヤーミトセンヲ



ヤマガタアキターキシヤノタバシヤ
おほみやえきもーほどちか
ヨーソニスムスメバツツノミヤ

Copyright By
HAWAII KYOIKU KAI, 1930.

所
著
權
有

昭和五年七月廿八日發行
昭和十三年八月十日第九版

編譯者 布哇教育會
印刷者 內外圖書出版協會

MADE IN JAPAN